【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和５年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	佐賀市立松梅中学校

1　前年度 評価結果の概要	・学力の向上においては、校内研究の取組を中心に、思考力、判断力、表現力を高めるための言語活動を意識した共通実践を行った。学力向上対策評価シートのマイプランの成果を意識した取組を推進した。 ・いじめの早期発見、早期対応体制の充実を図ることができた。また、未然防止対策では、職員のローテーションによる講話やスクールカウンセラー・外部講師による講演会、さらには特別の教科道徳の授業等に全職員で取り組んだ。 ・業務改善・教職員の働き方改革の推進においては時間外勤務時間の目標は達成できたが、タイムマネジメントの意識が低かった。今年度はアイディアを共有し、タイムマネジメントを意識した業務効率化をさらに推進する。 ・個に応じた教育の充実においては、ユニバーサルデザイン教育の視点に立った教育活動を実施し、全職員で生徒が授業に集中できる環境づくりを行った。今年度も取組を充実させる。
2　学校教育目標	ふるさと松梅を担う心身ともに調和のとれた生徒の育成
3　本年度の重点目標	**①　社会に開かれた教育課程の実現** **②　学校運協議会制度を生かした小中一貫教育の推進** **③　安心・安全な学校づくり（集団に不適応を起こしている生徒への対応）**

4　重点取組内容・成果指標　　**中間評価**　　**5　最終評価**

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○「自ら考え、学びを生かす児童生徒」を育てるための、主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり	○「授業における課題に対して前向きな姿勢で考え、積極的に解決を図ったか」に肯定的な生徒80%以上 ○「それまでに学習したことを生かして、発展的な課題に取り組んだりより深く考えるように努めたりしたか」に肯定的な生徒80%以上	・「自ら考え、学びを生かす」姿の明確化。 ・スキルタイムの中で確認テストを行う。 ・わかりやすく学ぶ意欲を高める課題の設定と、学び続ける姿勢を持続させたりより深く考えさせたりするための手立ての工夫。	A	・学習アンケートで、「授業中のめあて達成、授業中の課題解決のために、自分で考えようとしたか」に肯定的な回答をした生徒100%。「授業のめあての達成、授業中の課題解決を目指して、友だちの意見や考えを生かして取り組んだり、より深く考えたるするように心がけたか」に肯定的な回答をした生徒93%。 ・「自ら考え、学びを生かす」姿と手立てを整理中。	A	・学習アンケートで、「授業中のめあて達成、授業中の課題解決のために、自分で考えようとしたか」に肯定的な回答をした生徒92%。「授業のめあての達成、授業中の課題解決を目指して、友だちの意見や考えを生かして取り組んだり、より深く考えたるするように心がけたか」に肯定的な回答をした生徒100%。 ・グループ研究授業の中で「自ら考え、学びを生かす姿」を見つけて整理し、一覧にした。	A	・授業改善の取組が確実に進められている。 ・押しつけのない指導をこれからもお願いしたい。 ・生徒の自主性がよく育まれている。	校内研究
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「道徳の授業で学んだことや先生方の話を聞くことにより、自分の考えを広くしたり自分を見つめ直したりすることができたか」に肯定的な生徒80%以上 ○人権についての話を聞くことで、「人権を尊重することを心がけるようになった」に肯定的な生徒80%以上	・社会科と学年が連携しながら部落問題学習を実践する。 ・ふれあい集会で、「いじめ・命・人権」に関わる講話を教職員が行ったり、ローテーションによる道徳授業を行ったりする。 ・問題解決的な学習などを取り入れた「考え、議論する道徳」の実現。	A	・部落問題学習を2年の授業で指導案検討、関係者の授業参観.事後の反省会等も含めて取り組んだ。 ・ふれあい集会で「いじめ・命・人権」に関わる講話や毎月１日の人権作文の視聴等を通して、学校評価アンケートで「人権を尊重することを心がけるようになった」と肯定的な回答をした生徒100%。 ・「道徳の授業や先生方の話から、自分の考えを広くしたり自分を見つめ直したりしている」という質問に対して、肯定的な回答をした生徒100%。	A	・毎月のふれあい集会での「いじめ・命・人権」に関わる講話、毎月１日の人権作文の視聴、道徳の授業等を通して、「人権を尊重することを心がけるようになった」とアンケートで肯定的な回答をした生徒100%。 ・「道徳の授業や先生方の話から、自分の考えを広くしたり自分を見つめ直したりしている」に肯定的な回答をした生徒93%。	A	・昨年度よりさらによい結果になっているのは、全職員で取り組まれている証だと思う。 ・協調性のある生徒指導を続けてもらいたい。 ・もともと優しい子どもたちばかりであるが、さらに人権尊重を心掛けていてすばらしい。この先も継続してもらいたい。	人権・同和教育 道徳教育
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等（いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等）について組織的対応ができていると回答した教職員80%以上 ○Q-Uテストで学校生活不満足群の割合が全国平均以下	・月に一度「心のアンケート」を行い、全教職員に回覧する。 ・毎月「生徒指導・校内支援協議会」を開き、目指す子ども像にむかって適切な指導・支援が行われているか確認する。 ・生徒指導教育相談部会を毎週、いじめ防止対策委員会を適宜開き、情報の共有や対応を協議する。 ・保健室来室時に健康相談を行い、担任と情報を共有する。	A	・学校評価アンケートで「いじめ防止等（いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等）について組織的対応ができている」と回答した教師92%。 ・毎週生徒指導部会を開催し、情報を共有し、組織として未然防止に努めた。 ・月に一度「心のアンケート」を行い、教育相談週間ではより詳細なアンケートを実施した。気になる生徒に関しては聞き取りを行い、結果を回覧することで情報共有と予防を行った。	B	・学校評価アンケートで「いじめ防止等（いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等）について組織的対応ができている」に肯定的な回答をした教師100%。 ・生徒指導部会を開催し、情報を共有し、組織としていじめや問題行動等の未然防止に努めた。 ・Q-Uテストで学校生活不満足群の割合が2つの学年で全国平均以下を達成した。 ・毎月「こころのアンケート」を行い、全職員に回覧し、情報共有をすることができた。	A	・組織的にいじめに対する対応をされている。 ・今年度、いじめ、問題行動等ゼロということで、未然防止の取組がしっかりできている。	生徒指導 教育相談
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒85%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒90%以上 ○「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」に肯定的な回答をする生徒80%以上	・各学年ごとのキャリア教育を計画・実施し、夢ノートとつなげることで、夢や目標を立てて逆向き設計の意識を育てる。 ・各行事や総合的な学習の時間の中で、目標を立て、見通しを持たせた活動を行う。学習後の振り返りとありがとうメッセージに取り組む。	B	・学校評価アンケートで「先生は自分の良いところを認めてくれている」という質問に対し肯定的な回答が81%であった。また、「将来の夢や目標をもっている」に対して肯定的な回答した生徒77%。 ・「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」に対して肯定的な回答をした生徒が81%。 ・ゆめノートの活用や、文化発表会に向けての取り組みを進める中で取り組みを充実させる。	B	・学校評価アンケートで「先生は自分の良いところを認めてくれている」に肯定的な回答をした生徒83%。「将来の夢や目標をもっている」に対して肯定的な回答をした生徒72%。 ・「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」に対し肯定的な回答をした生徒86%。 ・文化発表会での総合的な学習の時間の発表や振り返りを行い、目標達成を実感した生徒が多かった。 ・各種行事の目標設定や振り返りを実施し、将来の夢や目標へとつなげていきたい。	A	・中間評価で既にクリアしているので、次年度は指標数値を上げてもよいのではと思う。 ・多感で将来に不安を感じることもあると思うが、一人一人に沿った指導を今後も続けてもらいたい。 ・将来の夢や目標をもった生徒がもっと増えてほしい。 ・文化発表会では、日々の学習の発表や練習した歌や演劇等、少ない人数ながらそれぞれの役割を果たす姿を見て、頼もしく思った。 ・体育祭、文化発表会、通常開催に戻り、生徒の頑張りが見られた。大いに楽しませても	キャリア教育 総合的な学習
●健康・体つくり	●「運動習慣の改善や定着化」 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の生徒80%以上 ○「スポーツの意義や大切さを理解している」に肯定的な回答をする生徒、保護者、職員ともに85%以上 ●「健康に良い食事をしている」生徒80%以上 ○食の大切さを理解し、毎日朝食を食べてくる生徒80%以上	・体力テストの結果分析から運動プログラムを立案、実践し、日ごろから運動に親しむ習慣を身につける取組を行う。 ・運動の意義や効果を理解したり、運動の楽しさを味わったりする保健体育の授業づくりを工夫する。 ・ほけんだよりや掲示物などで朝ご飯の大切さについて啓発を行う。	B	・2年生を対象に行ったアンケートで、「健康によい食事をしている」と回答した生徒は85.7%。 ・全校生徒対象に行ったアンケートで、「毎日朝食を食べている」生徒は78.6%。ほけんだよりや給食の時間の放送、掲示物等で引き続き啓発を行う。 ・「スポーツの意義や大切さを理解している」に肯定的な回答をした生徒は96%、職員は100%だった。 ・部活動に所属していない生徒の運動習慣を身につけさせるために、運動プログラムの実践を継続する。	A	・全校生徒対象に行ったアンケートで、「毎日朝食を食べている」生徒は79%だった。しかし、「ほとんど食べていない」と答えた生徒数が5月よりも0.7ポイント増えた。今後は、食習慣に関わる生活習慣（早寝早起き）も併せて保健だよりや委員会活動を通して改善を促していきたい。 ・「スポーツの意義や大切さを理解している（指導している）」に肯定的な回答をした生徒、職員は100%だったが、保護者は96%と比較するとやや下がるので、今後、保護者への情報提供の充実化を図っていきたい。 ・今後も部活動に入部していない生徒へ運動プログラムの継続を促していきたい。	A	・朝食の大切さや、外での活動減による運動不足改善に向けて取り組んでいただきたい。（部活動、授業以外で）	保健　体育
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○「タイムマネジメントを意識して業務改善に努めた」職員80%以上	・月曜日の ノー部活デー、定時退勤日を励行する。 ・定期的に業務効率化についてのアイディアを共有し、意識の向上を図る。	C	・時間外在校等時間の上限を遵守できた職員は、4～7月の4ヶ月で58%だった。 ・学校評価アンケートで「タイムマネジメントを意識して業務の効率化を図り、時間外勤務の削減に努めた」教職員77%。定時退勤日を励行し、一層の意識の向上を図る。	B	・時間外在校等時間の上限を遵守できた職員は8～12月の5ヶ月で72%だった。 ・11月アンケートで「タイムマネジメントを意識して業務の効率化を図り、時間外勤務の削減に努めた」教職員72%だった。 ・安全衛生委員会で業務効率化のアイディアを出し合って意識を高める取組を行った。	B	・無理に早く帰宅することよりも、アイディアを出し合ったり、教育課程を見直したりと具体的な話し合いを今後もされると前進しそうだと思った。	教頭

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○個に応じた教育の充実	○生徒の主体的な取り組みを支援するという視点から、一人一人の教育的ニーズを把握する。	○学校生活や授業について前向きな回答をする生徒80%以上	・生徒指導・校内支援協議会で「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」、「個人カルテ」を活用して情報交換を行い、生徒理解に努める。	B	・「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を作成することはできたが、その内容について共通理解をして全職員で共通の取り組みを行うところまでには至ることはできなかった。	A	・アンケートの結果で、「安心して学校生活を送ることができている」と回答した生徒96%だった。 ・担当者どうしでの情報交換や共有を密に行い、共通した取組を行うことで、生徒の心の安定を図ることができたが、今後は作成した支援計画をさらに活用していきたい。	A	・小中連携をしやすい環境の中でよくなされていると思う。 ・細やかな連携が功を奏していると思った。 ・今後も個人を尊重した指導を続けてもらいたい。 ・すばらしい結果である。	特別支援教育

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・学力の向上においては、校内研究の取組を中心に、「主体的に学習に取り組み、学びを生かす児童生徒の育成」を意識した共通実践を行った。一人一授業の取組を行い、児童生徒の自ら考え、学びを生かす姿を追究し、手立てを工夫し、授業改善に生かした。 ・心の教育においては、いじめの早期発見、早期対応体制の充実を図ることができた。また、未然防止対策では、職員のローテーションによる講話やスクールカウンセラー・外部講師による講演会、さらには特別の教科道徳の授業等に全職員で取り組んだ。成果として今年度、いじめ、問題行動等発生件数0であった。今後も本年度の取組を継続していく中で、生徒の人権意識を向上させる。 ・業務改善・教職員の働き方改革の推進においては時間外勤務時間の目標は達成できたが、タイムマネジメントの意識が低かった。今後もアイディアを共有し、タイムマネジメントを意識した業務効率化をさらに推進する。 ・個に応じた教育の充実においては、一人一人に応じた教育活動を実施し、全職員で生徒が安心して学校生活を送ることができる環境づくりを行った。今後も取組を充実させる。